

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

REC'D 14 SEP 2004

WIPO PCT

出願人又は代理人 の書類記号 F-1843	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/05567	国際出願日 (日.月.年) 01.05.2003	優先日 (日.月.年) 02.05.2002
国際特許分類(IPC) Int. Cl ⁷ C14C9/00, D06M23/00		
出願人(氏名又は名称) 南浦 正起		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

☐ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

I ☒ 国際予備審査報告の基礎II ☐ 優先権III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成IV ☐ 発明の単一性の欠如V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明VI ☐ ある種の引用文献VII ☐ 国際出願の不備VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 25.11.2003	国際予備審査報告を作成した日 02.08.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員)	4S 7722
	佐野 健治 電話番号 03-3581-1101 内線 3430	

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
 応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
 PCT規則70.16, 70.17)

☒ 出願時の国際出願書類

- ☐ 明細書 第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
☐ 明細書 第 _____ ページ、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
☐ 明細書 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項、出願時に提出されたもの
☐ 請求の範囲 第 _____ 項、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
☐ 請求の範囲 第 _____ 項、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
☐ 請求の範囲 第 _____ 項、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
☐ 図面 第 _____ ページ/図、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
☐ 図面 第 _____ ページ/図、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	4, 5, 7, 9, 10, 12	有 無
	請求の範囲	1-3, 6, 8, 11.	
進歩性(IS)	請求の範囲	4, 5, 9, 10	有 無
	請求の範囲	1-3, 6-8, 11, 12	
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-12	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: WO 99/19081 A1 (UNION CARBIDE CHEMICALS & PLASTICS TECHNOLOGY CORPORATION) 1999. 04. 22, 全文
& JP 13-519237 A, 全文

文献2: EP 0170611 A1 (CIBA-GEIGY AG) 1986. 02. 05, 全文
& JP 60-231865 A, 全文

文献3: JP 48-35640 B1 (鐘紡株式会社) 1973. 10. 29, 全文(ファミリーなし)

文献1の請求項17には、圧縮流体が、液状混合物が噴霧される温度及び圧力で少なくとも1種の超臨界流体を含むことが記載され、請求項19には、密閉加压装置系において添加剤組成物と圧縮流体を含有する液状混合物を形成させること、ここで、該液状混合物は、可撓性シート材料に少なくとも付着でき、その中に浸透できると、さらに、請求項20には、前記可撓性材料が皮革であること、また、段落番号0056には、前記添加剤組成物における添加剤物質は、芳香剤、香料、脱臭剤、抗菌剤、抗微生物剤その他の有効成分であることが記載され、また段落番号0057には、添加剤物質として種々のオイル、ワックスが用いられることも記載されており、段落番号0051には、圧縮流体として使用できる化合物は、二酸化炭素であることも記載されており、よって、請求の範囲1-3, 6, 8, 11は、新規性及び進歩性を有しない。

また、請求の範囲7, 12は、皮の鞣し工程における加脂工程で、皮の組織及び繊維内に加脂剤等の油脂成分を浸透させて皮革、毛皮等の皮製品加工用素材、または皮製品を製造する方法に係る発明であるが、文献1の段落番号0057に記載された添加剤物質であるオイル、ワックス等を、単に、皮の鞣し工程における加脂工程で適用することは、当業者が容易に想起できることであって進歩性を有しない。

一方、請求の範囲4, 5, 9, 10に係る発明における、有効成分を動物の皮の組織及び繊維内に浸透させる前に、その組織及び繊維内に残留する脂質、水分等の不純物を除去すること、さらには、その不純物の除去に高圧流体を用いることについては、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、また、当業者にとって自明なものでもないから、新規性及び進歩性を有している。